令和７年度 第１回宝達志水町文化財保護審議会 議事録

日　時：令和７年５月２０日（火）　　午後３時００分～午後４時３０分
場　所：宝達志水町埋蔵文化財センター　２階　研修室

出席者
委　員：村上委員、末森委員、大窪委員、出倉委員、金山委員、村井委員、
　　川畑委員
事務局：細江教育長、松浦課長、麦居学芸員

次　第
１　開　会
２　教育長あいさつ
３　委嘱状交付
４　会長及び副会長の選出
５　議題
　（１）令和７度文化財保護事業計画について
　（２）令和７年度能登文化財保護連絡協議会について
６　その他
　（１）事務連絡等
　（２）意見交換
７　閉会あいさつ（副会長）

議事録
（令和７度文化財保護事業計画について）
委　員：喜多家の入館料をなくすという話を聞いていましたが、どうなりましたか。

事務局：喜多家の入場料につきましては、今後も継続的に取っていきます。と言いますのも、維持管理にあたって経費が必要になり、国指定文化財で希少価値が高いことも含めて、今後も入場料を徴収していくことになりました。議会からもこのようなご提案がありましたことを踏まえた上で、利用者の方から徴収させていただいて、より良い形でフィードバックできればと考えております。

委　員：(倒壊した)岡部家の土塀はどうなりましたか。

事務局：事業計画でご報告させていただいたのは当初予算に係るものになります。岡部家庭園の横にある土塀につきましては、補正予算で対応を検討しております。

委　員：喜多家表門の屋根の葺き替えについてですが、今年度調査した上で、来年度に予算付けをするということでよろしかったでしょうか。

事務局：今年度は基本設計で、どのように直していくのかを文建協(文化財建造物保存技術協会)に委託して実施します。それに基づいて葺き替え工事を実施していく予定です。

委　員：きれいになるといいですね。

委　員：臼ヶ峰往来(御上使往来)についてですが、所司原の住民として氷見市の行事に参加することがあり、氷見の方から石川県側の景観をどうにかしてほしいという話が出ます。もう少し景観への配慮をお願いできないでしょうか。深谷と臼が峰の間の場所で、展望コーナーのような場所を設けるなど、何か考えていただけないでしょうか。

委　員：もと担当からですが、氷見市の教育委員会に確認しましたところ、氷見市としてはお金を出しておらず、地域の住民たちだけでやっている。市からはキャンプ場や展望台の維持管理費は出ているが、道について教育委員会はお金を出していない。主に清掃をしている道は農道なので、住民の方でやっています。宝達志水町については、合併当初は7世帯の農家の方々が道を整備されていました。農道だけでなく山道に降った雨水を自分たちの田んぼに引いていた。その方々が掃除をしていました。町の教育委員会は、旧志雄町時代から7月(くさぎ祭)と10月(公民館事業として臼ヶ峰を歩く)のイベントに合わせて清掃をやっている。それ以外については、町道は地域整備課、県道は県土木、林道は農林課が管理していました。整備についても、志雄町時代に展望台を何か所か作ってありましたが、木が伸びてきてしまいました。山頂の道路も崩れて道を付け替えましたが、道の真ん中が県境で、地境でもめた経緯

があります。前任からこのような状況で引き継ぎましたが、手の施しようがない。

委　員：思いついてパッとできるようなものではないことは、村井さんの話から分かりました。しかし、行政区分の問題、民有地の問題など様々な問題が絡んでいることは承知の上で、少しでも景観に配慮していただきたいという緩やかなお願いです。

事務局：文化財には保存と活用はついて回ります。活用していくという観点からも、いつになるか見通しはありませんが、将来的に考えていくということでよろしいでしょうか。

委　員：末森城の御城印制作とはどういうものですか。

事務所：葉書くらいの大きさの紙で、御朱印のようなものを制作いたします。

委　員：国分寺跡のところにある（のと里山里海ミュージアム）の喫茶店コーナーで販売されている御城印に末森城のものがすでにあります。

事務局：承知しております。それを町独自で作ることを現在考えております。

委　員：作ったあとはどうされますか。

事務局：作ったあとは、末森城跡の普及のために広く配布します。無料ではないのですが、いまのところ数百円程度での頒布を考えています。

委　員：頒布する場合、例えば国分寺跡は喫茶店コーナーがありますが、宝達志水町はどこで頒布するのですか。

事務局：埋蔵文化財センターの見学者を増やすという目的もあって、そこでの頒布を当初は考えていました。ただ、今年度から埋蔵文化財センターの開館日が金曜日のみとなったので、センターだけでなく別の場所も１か所考えておく必要があると考えております。

委　員：金曜日の一日だけだと寂しいですね。

事務局：そうですね。

委　員：御城印といいますと、御朱印のように判子でぺたんとするのではなく、最初から印刷されたものですか。

事務局：印刷されたものになります。現物を事務室に置いてきたためお見せできないという状態でございます。

委　員：県外ですと、スマホ対応のものもあります。スマホでQRコードを読み込むようなものです。それだと場所とかこだわらずに、あちこちに置くことができます。

委　員：それはいくらになりますか。

委　員：私の知っているのは無料です。

委　員：末森城だけでなく岡部家や喜多家、散田金谷古墳など、1回の単発で終わらず継続的に町の文化財を宣伝するのであるならば、他の施設も上げていくべきだと思います。

事務局：単発という点につきましては、今は第1弾と考えていまして、まずスタンダードなものを一つ作ろうと思っています。何かしら特別な、例えば記念、今年度だと町制20周年ということになっておりますが、それを記念して特別な御城印を用意する、というようなことも考えています。個人的な思いとしては、スタンダードのものもバリエーションを増やしていけば、それだけ宣伝につながるかと思っております。そのあたりは今後、町の中で協議していこうかなと思っております。散田金谷古墳につきましては、古墳印というものも存在しているらしいので、そういうブームに乗っかって古墳印を作るのもありかなと思いました。ただ、古民家についてはそういうものがあるとは聞いたことがないのですが、御城印、古墳印などのブームに乗っかるだけではなくて独自に作っていくのも面白いかもしれません。

委　員：見学にきた記念に、という訳ではないのですか。

事務局：見学に来られた記念に渡すというよりは、希望者に安価で頒布するものになります。

委　員：山城サミットで、白山市と連携することはありますか。
事務局：今のところ連絡はありませんが、あるとは思っておりますので、連絡があれば積極的に協力していこうと考えています。

委　員：そこにブースでもあれば、そこで頒布することもできると思います。

事務局：それも見込んでいます。

委　員：数千人単位で人が集まるサミットになります。

委　員：山城サミットなどは混ぜてもらえればぜひ活かす形で進めてもらえればと思います。